

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ミライ・シア

② 施設・事業所情報

名称：アスク和田町保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：熊澤 雪乃	定員（利用人数）： 60名
所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区和田1-13-1 朋和ビル1階	
TEL：045-340-0337	ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2007年4月	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社日本保育サービス	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 13名
専門職員	保育士 21名
	栄養士 1名
	調理師 4名
施設・設備の概要	保育室： 3室 調理室： 1室
	事務室： 1室 トイレ： 3
	園庭： 1

③ 理念・基本方針

【グループ運営理念】

- ①安心＆安全を第一に保育・育成を実施します
- ②いつまでも思い出に残る施設となるよう日々の保育を大切にします
- ③職員が楽しく働けることで子どもたちを笑顔にします
- ④地域とつながり支え合う施設として社会に貢献します
- ⑤常に時代が求める子育て支援を実践し続けます

【保育理念】

「未来（あす）を生きる力を培う」
自分らしく、生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います

【保育方針】

一人ひとりに心をかけ、愛情を注ぎ、成長に合わせたきめ細かな保育を行うことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための、“生涯にわたる生きる力の基礎”を育みます

- 自らの伸びようとする力を支えます
- 五感を養って感性を豊かにします
- 後伸びする力を育みます

【保育目標】

元気に育て心と体

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・100㎡ほどの園庭が、玄関ドアからすぐに出られる場所にあり、公園に出掛けられ

ない日でも、戸外活動をすることができます。

- ・専門派遣講師による、「英語」「体操」「おんがく（旧リトミック）」のプログラムを、隔週月に2回ずつ実施しています。

- ・メガロス横浜天王町とスイミング連携をしており、インストラクターによる安全かつ、安心なレッスンを4.5歳児の希望者が受けることができます。

水への親しみを持つ、水に慣れるというところから始まり、簡単な運動を行います。水泳という全身運動に取り組むことで、体力の向上を図るとともに、浮力によって身体を動かすことの楽しさを感じることができます。

- ・近隣住民の方々や商店街との繋がりを大切にしており、七夕の際に園内で飾る笹は、昔からお付き合いのある近隣の方のお庭からいただいて使っています。ハロウィンでは、商店街のお店にお願いをして、お菓子を配ることに協力していただいています。

- ・配慮を要する子どもを積極的に受け入れ、区役所、療育センター、児童相談所など、様々な専門機関と連携しながら、より良い保育を目指しています。必要に応じて、ケース記録などの個人記録を記入しています。

- ・今年度より、幼児クラスは、バイキング給食を取り入れています。新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、幼児クラスの当番活動も再開しました。小学校に向けて、当番が給食の配膳をしながら、一人ひとりの希望の量で配膳し、自分の食べられる量を知ること、完食することの喜びを感じることを大切にしています。

- ・3.4.5歳児は、毎月クッキング保育を実施しています。クッキングのテーマは、栄養士と各クラスの担任とで毎月相談をし、興味のある食材や器具を取り入れるようにしています。

- ・園庭のプランターで、各クラス野菜を育てています。種や苗を植えるところから、水やりや観察など、各クラス子どもたちができることは、子どもたちにやってもらっています。栽培した野菜は、クッキング保育で使用することもあります。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年8月1日（契約日）～ 令和6年3月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	12回（平成29年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1.保護者ニーズに応える園長のリーダーシップ

園では体操教室や英語、リトミックなど保護者から人気があるプログラムを実施していますが、今年度は外部のスポーツ施設と連携し、希望者に対して有料で水泳教室を開催しています。これは保護者アンケートより子どもに習い事をさせたいというニーズが以前よりあり、それを今年度園長が汲み取って形にしています。園運営については園長に大きな裁量を与えられていることで実現しており、確かな保護者満足に繋がっています。

2.「食」を通した子どもの楽しみ

毎月のクッキング（いももち、モンブラン、ホットドック等）、0歳児クラスからの栽培（ナス、ピーマン、キャベツ等）をしています。収穫物は給食の食材になります。4、5歳児クラスは給食当番が盛り付けをするバイキング方式にしており、子どもは当番に「少な目」「もっと」など伝えています。また、給食・午後おやつは手作りにこだわり、献立には月見、ハロウィン等年中行事に合った献立のほか、太平燕風春雨スープ（熊本）、芋煮（山形）等郷土料理も登場します。

3.子どもを受け止める保育

子どもが自分でやりたい気持ち、意欲を大切にしながら見守り、さりげなく援助しています。お山座りが上手くできた時に見せる子どもの自信に満ちた表情を職員は見逃さず褒めています。友だちとぶつかって泣いてしまった子どもに優しく声をかけ、本人の気持ちを受け止めています。子どもたちは職員との関わりや遊びの中からたくさんのかんことを学んでいます。けんかを含めさまざまな経験をするのが相手の気持ちを理解する必要な体験と捉えています。

4. 日々の保育を大切にしている視点

職員は、子どもが経験を積む、いつまでも思い出に残るよう日々の保育を大切にしている視点を含む各指導計画を立て、保育とのつながりを見ながら子どもの発達過程や心の育ち・意欲・興味などをよく観察しています。職員の援助・関わりが適切であったかなどを確認しながら指導計画の自己評価をしています。各会議や園内研修では職員から互いの意見や疑問点、保育の課題や改善についての提案が出されており、保育の質の向上、意識の向上につながっています。

5.保護者と園とのコミュニケーション

第三者評価の利用者アンケート結果や日常的に行っている保護者アンケート結果について、保護者からの自由回答を見ると園と保護者で認識の違いが多少見られます。例えば、服装などの園内ルールについて、園では説明しているつもりですが、保護者が納得しきれていないことや、園が行っている目的・意図が伝わり切れていない状況も見られます。今後も引き続き丁寧な会話・連絡をすることが望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

利用者目線で求めるサービスの提供がなされているかなどを、公正で信頼性のある機関に評価していただくことで、運営の方向性が確実に利用者にも届いているかを把握していきたいというねらいが受審の動機です。

専門的かつ客観的な視点で評価していただくことで、日頃の保育運営を今一度見直す良い機会となりました。

評価結果をホームページで公開することにより、地域に開かれた保育園として信頼を得るとともに、保護者が安心して自らの判断で保育園を選択するお手伝いができればと思います。

物的環境の改善をすることで、保護者の思いを受け止め少しずつ良い保育園作りに反映していく手立てとなり、保護者が保育園に求めている内容も年々変化していることも明らかであると感じました。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にも関わらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり